



平成29年4月10日

平成28年度北海道開発局営繕部総合評価審査委員会 の審議概要について

平成29年3月29日（水）に開催された、平成28年度北海道開発局営繕部総合評価審査委員会の審議概要を別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

営繕部 技術・評価課 営繕監督官 吉田 正明（内線5783）

営繕部 営繕管理課 営繕契約専門官 後藤田 政晴（内線5715）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



平成28年度 北海道開発局営繕部総合評価審査委員会（第1回） 審議概要

開催日及び場所	平成29年3月29日（水） 北海道開発局営繕部長室
委員	菊地 優（きくち まさる）北海道大学大学院教授 久保 勝裕（くぼ かつひろ）北海道科学大学教授 羽山 広文（はやま ひろふみ）北海道大学大学院教授 (五十音順)
議 事	<p>I 実施報告</p> <p>(1) 平成28年度 工事の総合評価落札方式の実施状況</p> <p>(2) 平成28年度 建築関係コンサルタント業務等の実施状況</p> <p>(3) 平成28年度 総合評価審査委員による個別審査の概要</p> <p>II 運用方針</p> <p>(1) 平成29年度 工事における総合評価落札方式の運用方針（案）</p> <p>(2) 平成29年度 建築関係コンサルタント業務発注方式の運用方針（案）</p> <p>III 意見交換</p>

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	回 答
<p>I 実施状況について</p> <p><工事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事成績相互利用の試行について、例えば今回審議対象の工事では、具体的にどこの機関の工事成績を利用しているのか。どこかで工事成績のデータベースを作成しているのか。 ・今年度の新たな取り組みの任意着手制度を採用すれば、人手不足が原因の不調工事は、回避できたのではないか。 ・メール配信サービスとはどのような取組なのか <p>II 運用方針（案）について</p> <p><工事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合評価落札方式で、落札者を決定する場合の技術評価点と入札価格の関係について改めて確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事成績相互利用は今年度から試行している。今回試行した工事では、大学法人等が発注した工事の成績が相互利用の対象となった。相互利用は多数の省庁が参加しており、国土交通本省で各省庁等の工事成績を集めてデータベース化し、各地方局がこれを利用して検索して評価している。 ・当初の工期にゆとりがないため、当初発注時は採用できないものもあった。再発注にあたり、予算繰越手続等を行い、工期を確保した上で、任意着手制度を活用し、落札に至っている。 ・官庁営繕工事・業務への入札参加を検討される方への発注情報のメール配信を行っているものであり、あらかじめメールアドレスを登録することで、公告日にメール配信するもの。初期登録が必要なため、登録を促しているところ。一般競争の場合、情報を捕まえてもらえるような努力が発注者として必要である。 ・技術評価点を入札価格で除した値を、評価値とし、予定価格以下で評価値が最も高い者が落札者となる、いわゆる「除算式」を採用している。

<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価により逆転したことは、入札者は分かるのか。 <p>Ⅲ 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不調不落の対策でここ数年くらい「技術者の施工経験や常駐の要件を緩和」と説明されているが、品質確保にとってはプラスにならない面もある。緩和したことで、不具合はでていないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価点も入札価格も全て落札決定後に公表している。 <ul style="list-style-type: none"> ・品質確保できる範囲で、階数、用途など、細かく規定していたところを緩和して運用している。今のところ品質上直接的な不具合があったという例は発生していない。建設業界全体で高齢化などの問題に直面しており、多くの参加者が期待できることに意味があると考えている。
--	--